

商学部



一橋大学

HITOTSUBASHI UNIVERSITY

ビジネス教育の150年の礎、真の「実学」を身につける

2025

HITOTSUBASHI 150th

150年のあゆみ

一橋大学の歴史は、日本における近代化の歴史と重なります。1868年の明治維新を契機として、新たな企業や産業が次々と日本に生まれました。そこで必要とされるビジネス・リーダーを育成するため、1875年に森有礼が東京・銀座に私塾として商法講習所を開設しました。渋沢栄一もまた、商法講習所を支えた一人です。

一橋大学は、時代の移り変わりとともにその教育・研究領域を広げ、現在は商学、経済学、法学、社会学、ソーシャル・データサイエンスという5学部を擁する「社会科学の総合大学」となっています。商学部は、商法講習所以来の伝統をもっとも長く受け継ぐ学部として、優れた人材を産業界および学界に数多く輩出し、発展し続けてきました。

長い歴史の中で、一橋大学は、古くから“Captains of Industry”の育成を使命として掲げてきました。これは、イギリスの思想家にして歴史家であったThomas Carlyleが1843年に著した『Past and Present』に登場する言葉に由来しています。この考えは、21世紀に学ぶ今の学生にも受け継がれています。

「商学部」では何を学ぶのか

一橋大学商学部は一言でいえば「ビジネス」を学ぶところです。しかしビジネスに関する単なるテクニックやノウハウを学ぶところでは決してありません。経営学や会計学、マーケティング、金融論といった「企業経営に関わる現象を対象とした応用的な社会科学」を学ぶことを通じて、実際の企業活動に関わる出来事や問題について深く考え、的確な分析をし、現実的な解決策を打ち出す、そういう真の意味での「実学」を身につけるところです。

どんな教育を提供するのか

商学・経営学の高い専門性を習得すると同時に、広く社会を考える教養を深めるための教育プログラムを用意しています。主に「講義」と「ゼミナール」という2つの方法が用いられ、このうち「ゼミナール」は、一人の指導教員が、数人から十数人という少数の学生と小さな教室で向き合い、互いに議論を重ねたりしながら学んでいく教育スタイルです。これを通じて専門分野の知識や考え方を身につけていくとともに、「経済社会に関して深く思考するとはどういうことか」を頭と身体に染み込ませていくのです。商学部の学生は全員、入学してから卒業するまでの4年間にわたってゼミナールでのきめ細かな教育を受けることになります。ゼミナールの仲間が生涯の友となることも少なくありません。

目指す人材とは

私たちが目指す人材は、すぐに役立つ知識のみを追求するのではなく、深い洞察力と温かな心をもって、自らが関わる企業を、そしてより大きな経済社会を、適切な方向に導くビジネス界の指導者、Captains of Industry です。





講義

専門科目教育および英語能力の養成



ゼミナール

少人数教育を通じた深い学び

商学部の教育プログラムは、基礎から応用までの段階的な専門科目教育と英語でのコミュニケーション能力の養成に加えて、第一線で活躍する実務家教員による教育も行われています。

基礎から応用までの段階的な専門科目教育

商学部は、経営学・会計学・マーケティング・金融という4つの領域を中心としています。それぞれの領域における科目は、「導入科目」「基礎科目」「発展科目」という3種類から構成されています。各領域において、基本的な知識と考える力をまず身につけ、次いで応用的な知識・能力を段階的に修得できるよう工夫された科目配置となっています。

英語でのコミュニケーション能力の養成

商学部では、全学の1年生用英語コミュニケーション・スキル科目に引き続き、2年生以上を対象としたEDGE (English Discourse for Global Elites)を開講し、より高いレベルの学習の機会を設けています。EDGEでは、英語教育に関する専門資格を持つネイティブ教員によって実践的な講義が行われています。この講義を通じて、オーラル・コミュニケーション・スキルを含めた4技能(listening, speaking, writing, reading)のさらなる向上を図っています。



主な講座と科目

経営講座

経営学入門、経営組織論、経営戦略論、経営史、企業と倫理・社会、国際経営

会計講座

会計学入門、簿記システム、財務会計(中級・上級)、管理会計、財務諸表分析

マーケティング講座

マーケティング入門、消費者行動、マーケティング・マネジメント、マーケティング・コミュニケーション、流通

金融講座

金融入門、マクロ金融論、コーポレート・ファイナンス、資産価格論、金融数理論

ゼミナール

導入ゼミナールⅠ&Ⅱ

前期ゼミナールⅠ&Ⅱ

後期ゼミナール

ゼミナールは、一橋大学で100年以上も続いている伝統的な教育スタイルです。指導教員が10名前後の学生と小さな教室で向き合って専門書を読み、議論を重ねています。こうして濃密な学問の時間を共に過ごすことで、学生は普段の講義以上に深い学びを実現しています。

導入ゼミナール(1年次)／前期ゼミナール(2年次)

商学部は、このゼミナール教育にかなりの力を注いでいます。学年進行に対応して、「導入ゼミ(1年次)」「前期ゼミ(2年次)」「後期ゼミ(3・4年次)」という各種のゼミナールを用意し、その時々に適した学びの場を提供しています。導入ゼミと前期ゼミにおいて、学生は社会科学的な考え方に関する基礎的な力を身につけています。その後、3年次を迎えるにあたって学生は自らの関心に沿って専門領域を選び、望ましい後期ゼミを受講します。ここでは、専門領域について集中的に取り組み、学びを深めています。4年次には、後期ゼミの担当教員によるきめ細かい指導を受けながら、卒業論文の執筆へと進んでいきます。

後期ゼミナール(3・4年次)

後期ゼミでは、教員やゼミの仲間と特に濃密な時間を共有します。そのため、卒業後も活発な交流が続いています。こうした人的ネットワークも、学生にとってかけがえのない財産になっています。



さらなる学びの場／一橋ビジネススクール

学部卒業後、より高い専門性を獲得したい学生には、大学院経営管理研究科の「経営学修士コース(経営分析プログラム)」と「研究者養成コース」が用意されています。経営学修士コースでは、より高度な実践志向の教育を受けることができます。研究者養成コースでは、日本のみならず世界的にも中核的な研究者を輩出してきた伝統を引き継ぎ、高度な学術的教育・研究活動が行われています。なお、経営学修士コースと研究者養成コースの双方において、学部入学から修士修了までの期間が1年短縮される5年一貫コースが商学部の成績優秀者に対して用意されています。

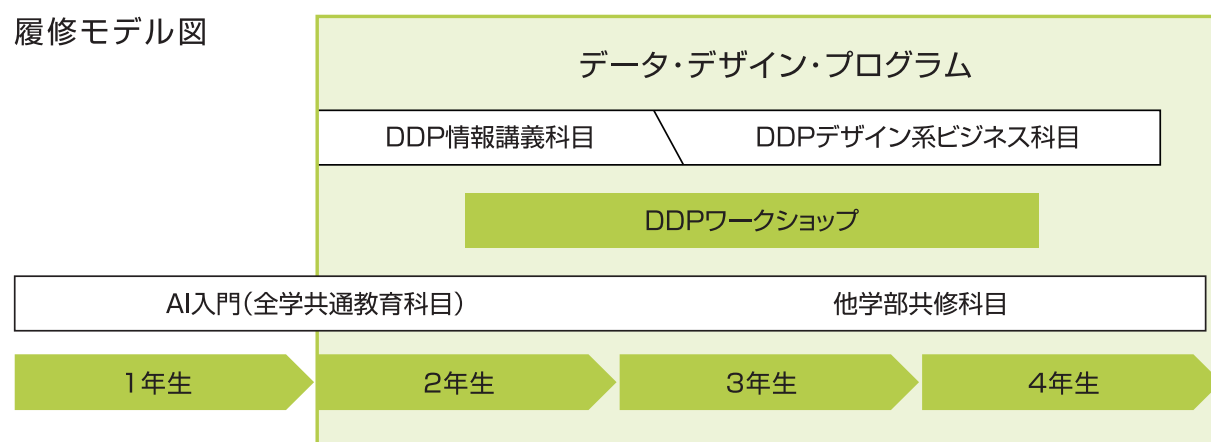
HUB |  HITOTSUBASHI UNIVERSITY BUSINESS SCHOOL



技術とビジネスを“情報(データ)”と“デザイン”で連結できる 新しいタイプの経営者(デザイン経営者)を育成

商学部のデータ・デザイン・プログラム(DDP)は、技術とビジネスを情報とデザインで連結できる新しいタイプのデザイン経営者を育成し、イノベーション人材を輩出することを目的とした、「コンピュータ・サイエンス」と「デザイン思考」を融合したカリキュラムを構成するプログラムです。参加者は、通常の学部科目と並行して「デザイン経営」や「メディア&サービスデザイン」などのデザイン系科目と、人工知能やプログラミングなどの情報系科目を学びます。2年次からは自分を取り組みたいプロジェクトを選択し、チームで実務課題のワークショップに取り組んでいきます。また、芸術系大学や民間企業と連携した講義やシンポジウム、先進的な海外の大学との連携を提供しており、グローバルレベルで通用する人材育成を目指しています。

履修モデル図



本プログラムは2年生を対象とする30名程度の選抜制の特別プログラムです。商学部以外の学部生も受け入れる学部横断型の構造を持っています。2年生から4年生までの3カ年で構成されます。修了者にはサーティフィケートが授与されます。



マーキュリータワー5階にある3つのDDP専用教室は、学生がいつでも気軽にやって来て好きなだけ学習やグループワークに打ち込めるスペースで、両側面の壁にはアイデアを思いついたときに、自由に絵や文字で書けるよう巨大なホワイトボードを設置しています。

DDPサイトはこちら



<https://hddp.jp>

主な講義

新商品開発基礎

商業的に成功するアイデアは、3000の原案に対して1つとも言われる。新商品開発のフロントエンド、すなわちアイデア創出とコンセプト開発は、曖昧で管理が難しいにも関わらず、その後の商品の成功を運命付ける重要なプロセスである。本講義では、フロントエンドを中心に、創造性開発やプロジェクトマネジメントのための一連の手法や、モチベーション等の心理状態に即したチーム管理等を、実例や学術理論を通して学習する。

デザインの基本

本講義の目的は、「どのようにすれば知識や関心の全くなかった人にデザインを身につけさせることができるのか?」ということである。多摩美術大学教授の永井一史(HAKUHODO DESIGN代表取締役社長)が、多様な実務家をゲストとして招いて講義を構成する。本講義でのデザインとは、製品/サービス全体やそのユーザー接点を設計する行為全般を指す。なぜデザインを学ぶのか?それは、魅力的な製品/サービスかによってユーザーにとっての価値が変わり収益性や企業経営が大きく左右されるからである。また新しい事業を発想する創造性教育としてもデザインは重要である。

デザイン思考とデザイン経営

「デザイン思考」と「デザイン経営」の「なぜ」を理解することに主眼を置く。ビジネス、政策の現場での流行語の一つとなっているこの2つの考え方について、その実践例や実践手法についてはたくさんの情報が溢れている。しかし、それがなぜ有効なのかはほとんど探求されていない。この講義では「デザイン思考」「デザイン経営」の一步先を歩むことになるであろう皆さんが、その方法を考えていくための理論的な手がかりと、考える素材を提供する。

ワークショップ

本ワークショップでは、履修生がいくつかのグループを形成し、自ら課題を発見し、その解決の提案や提案を具現化するためのプロトタイピングを行うことを通じ、課題解決能力を育成していく。その実施においては、データの活用と、デザインの発想の活用を重視する。また、本授業を通じて、課題発見から課題解決までの一連の流れを理解し、その実施に向けた基礎的能力を身に付けることを目的とする。



このDDPプログラムは、本学の全学生が受講できます。これまでに累計120名の学生がプログラムを受講しています(2024年4月時点)。本学では国内の金融業界や商社への就職を目指す学生が多かったものの、近年は外資系企業やコンサルティングファーム、起業を志望する学生も増加し、卒業後に即戦力として活躍するための手法習得を目的にDDPで学び、企業協働プロジェクトに参加し社会課題の解決に取り組んでいます。

経営管理研究科 データ・デザイン研究センター長
驚田 祐一 教授

情報系講義科目(必修科目)

情報科学・統計基礎*
プログラミング実践*
新商品開発基礎
AI入門

データ・デザイン・ワークショップ(必修科目)

年次ワークショップ

デザイン系・ビジネス系科目(選択科目)

デザインの基本
メディア&サービスデザイン
デザイン思考とデザイン経営
マーケティング・コミュニケーション
特別講義「社会課題の解決」
特別講義「デザイン・リサーチ」
特別講義「情報技術経営のフロンティア」

他学部共修科目

経済学のための実践的データ分析
テクノロジーとリーガル・イノベーション
量的データ解析法I
人類学概論

(※ ソーシャル・データサイエンス学部については特例あり)



企業協働型研究プロジェクト
企業や自治体とともに、多彩な研究プロジェクトを展開中!



英語専門科目、海外留学、グローバル・リーダー育成を目指す

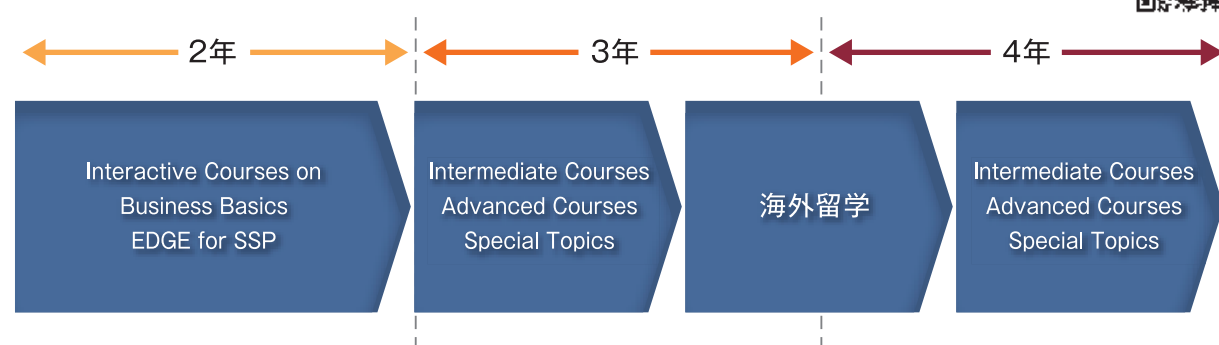
商学部には、ビジネスを通じて世界の発展に貢献するリーダーを育成するための教育プログラムがあります。日本の資本主義の父と言われ、草創期の一橋大学を支えた渋沢栄一をロールモデルとするこのプログラムを、私たちは渋沢スカラープログラム(SSP)と名付けました。渋沢は、ビジネスが万人にとってより良い社会を作り出す手立てとなることを100年以上前に見抜いていた世界的にも傑出したリーダーでした。

渋沢スカラープログラム(SSP)は、経済・社会に対する深い問題意識、高い志と溢れる情熱、直面する課題を主体的に解決する能力を備えた真のグローバル・リーダーの育成を目指します。

SSPは、1年次終了時における応募に基づいて、約15名の商学部生を選抜します。選抜された学生は、2年次から経営に関する各種の英語講義を受講し始めます。これらの英語講義には海外からの交換留学生も参加するため、専門知識のみならず、広範かつ深い国際的素養を身につけることができます。その上で、3年次以降に約1年間にわたって海外の大学へ留学します。英語による専門科目や海外留学先大学で履修した科目について所定の単位を修得した学生には、卒業時に修了証(Certificate)が授与されます。



SSP生向けカリキュラム



コアカリキュラム



経営分析プログラム修士1年
和田 晃征 さん

渋沢スカラープログラム8期生／
メルボルン大学(オーストラリア)留学
2022年7月～2023年7月

私が一橋に入学したころはコロナ禍で、学生生活をどう過ごしたらよいかを積極的に考えることができていませんでした。しかし、1年次の後半に入り焦りを覚え、改めて将来の進路を思い描く中で、留学が一つの選択肢として浮かびました。とは言え、性格が安定志向なうえ消極的で、語学面で授業についていけないリスクを考えたり、費用的な問題を理由に、一度は留学を諦めました。

その後、改めて留学を決意するに至ったのは、渋沢スカラープログラム(SSP)と派遣留学制度があったためです。SSPは英語で講義を履修する必要があり、修了のためには1年間の留学が必須となっています。このプログラムを活用することで英語の苦手意識を克服するとともに、半ば強制的に留学に行かなければならない状況をつくろうと考えました。

一橋の派遣留学制度は、海外協定校と派遣定員の多さに定評があり、加えて留学費用の約半分がカバーされるうえ、きめ細かいサポートがあるということで、安心して留学に行く決意を固めることができました。

一橋大学商学部 渋沢スカラープログラムの特徴

英語による専門科目

- 商学部の主要4分野(経営・会計・マーケティング・金融)について、英語による授業を履修します。
- 学生が段階的に学習できるよう、初級・中級・上級の3つのレベルの専門科目が各分野で開講されています。
- 教員との質疑応答や学生間での討論を通じて学習内容についての理解を深めていく双方向的な授業が行なわれています。
- これらの授業は海外協定校からの交換留学生も履修しており、海外からの留学生と肩を並べて議論を交わすことのできる学習環境となっています。

世界各国の交流協定校への留学

- 1年間の海外留学が必修となっており、一橋大学の海外派遣留学制度を通じて全員が世界各国の交流協定校に留学します(選考あり)。
- 交流協定校とは単位互換協定を結んでいるため、留学先の交流協定校で取得した単位を一橋大学の単位に互換することができます。交流協定校への派遣留学をしながら、所定の要件を満たせば4年間で一橋大学を卒業することもできます。
- 一橋大学海外留学奨学金によって往復渡航費と現地での生活費が補助されます。
- これまでの主な留学先: エセックビジネススクール、オックスフォード大学、カリフォルニア大学、キングス・カレッジ・ロンドン、国立台湾大学、コペンハーゲン経済大学、シンガポール経営大学、ソウル大学、トレント大学、フローニンゲン大学、ペンシルベニア大学、マンチェスター大学、マンハイム大学、ミネソタ大学、ルーヴェン・カトリック大学、ルンド大学、ローザンヌ大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、HEC経営大学院

学生交流協定校



就職先・進学先

- 日本国内のみならず、ボストンキャリアフォーラムなどの留学先での就職機会もあります。
- 主な就職先の業界、進学先: 会計監査法人(13名)、外資系金融(8名)、国内金融(12名)、外資系コンサルティング(15名)、外資系メーカー(3名)、国内メーカー(8名)、国内サービス(7名)、国内商社(4名)、国内不動産(3名)、大学院進学(国内18名、海外1名)
[1期生2017年～8期生2024年累計]



Out of Your Comfort Zone

詳しくはWeb
サイトをご覧ください。



教員インタビュー

経営管理研究科

福地 宏之准教授

知性と情熱に創造的な発想力を兼ね備え、
産業界でイニシアチブを示し、
社会をポジティブな方向に動かす
人材に育ってほしい

一橋大学商学部では、現代社会を構成している企業と市場に関連した諸現象について、経営学・会計学・マーケティング・金融の主要4分野を中心に、企業経営に関わることを一通り学べます。簡単に言えば、会社を経営するにあたって、どのような戦略をたてれば良いか、どのように商品を企画・販売すれば良いか、そのためにどう資金を調達するのか、その結果、企業がどれだけ儲かったかなどについてです。

「いかに儲けるか」というと俗っぽい話のように聞こえるかもしれませんが、科学的・学術的にアプローチしています。例えば、商品やサービスの価格設定一つとっても、経済学の産業組織論で研究されている市場での企業間競争の考え方が考察の重要な要素になります。一方で、価格設定には、消費者がどれくらいの価格であれば買ってくれるのかという心理学の側面もあります。価格に限らず、会社経営全般を見渡すと、組織のマネジメントなど人の集団をどのように見るのかという社会学的な考え方も重要となります。つまり、商学部では、消費者の行動や企業間競争、人のマネジメントなど、企業や市場で起こる幅広い現象について、学術的なレンズを通して見つめ、それらを深く考える能力を養っています。



一橋では、伝統的に実務家と近い距離にある教員の方々が多く、今の企業で求められるべきレベルを念頭に指導を行っていると思います。ビジネスのことは、社会に出てから学べばよいという人もいるかもしれませんが、実際、就職して、従業員のマネジメントを担当するようになってから組織論などについて学んでいる方は少なくないと思います。しかし一方で、学生時代に、そもそも人や組織がどう動くのか、その背後にある構造や理論などを体系的に学び、それを理解しているか否かはとても大きいと思います。また、企業を取り巻く環境も変わってきています。説明責任が以前よりも強く求められるようになり、より合理的に判断し、合理的に進めるという意識が高まっています。商学部で学ぶことにより、そうした動きに対応する経営リテラシーを得ることができます。

私のゼミでは、古典の輪読をする一方、ゼミで産学共同のビジネスコンテストに参加しています。ビジネスコンテストでは、ニーズの発見から始まり、商品企画、投資計画、人員体制など一連の経営戦略を立案します。こうした経験を通じて、理論を現実の中で生かすことを学んでもらいます。理論がわかると、社会のさまざまなことへの理解が深まります。異なる事象についてもその理論で説明できるようになり、まるで自分で発見したかのように感じるでしょう。それが学びの喜びです。学生の皆さんには、将来、一橋が目指す「Captains of Industry」、産業界においてイニシアチブを持って社会を良くするリーダーになっていただきたいと思います。

Profile

2003年一橋大学商学部を卒業。2009年一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了。一橋大学大学院商学研究科特任講師、東洋学園大学現代経営学部専任講師、准教授を経て2017年より現職。研究上の主たる関心は組織の市場対応のプロセス。現在の具体的な研究テーマは、1)組織構造とマーケティング戦略の関係、2)新興国市場への参入戦略と組織マネジメント、3)経営指標の組織的利用と戦略的意思決定の関係など。



商学部では、良質な教育プログラムを提供することを目指して、ミッション・ステイトメントを定めました。これは学生と教職員がともに目指すべき価値観を表明したものです。このミッションは、Leadership、Innovation、Integrityという3つの要素から構成されています。商学部の授業やゼミは、この3要素を実現するために設定されています。



卒業後の進路

詳しくはWebサイトをご覧ください



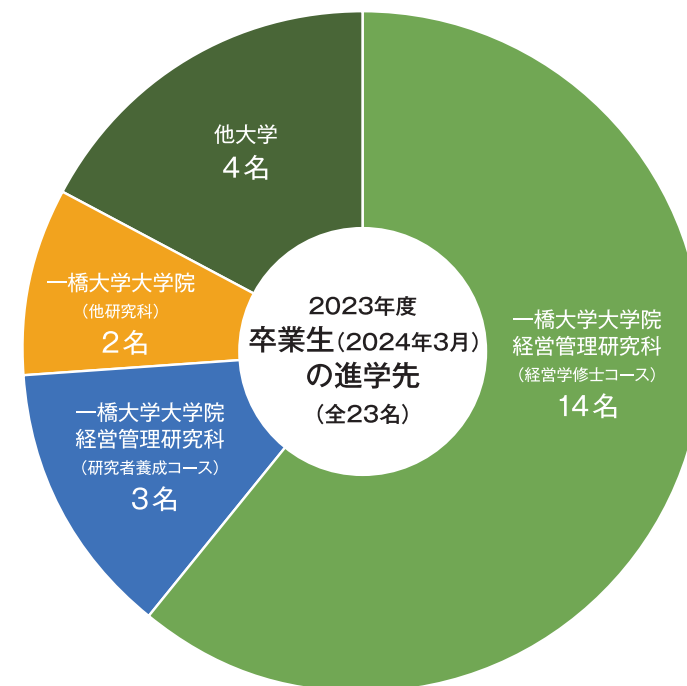
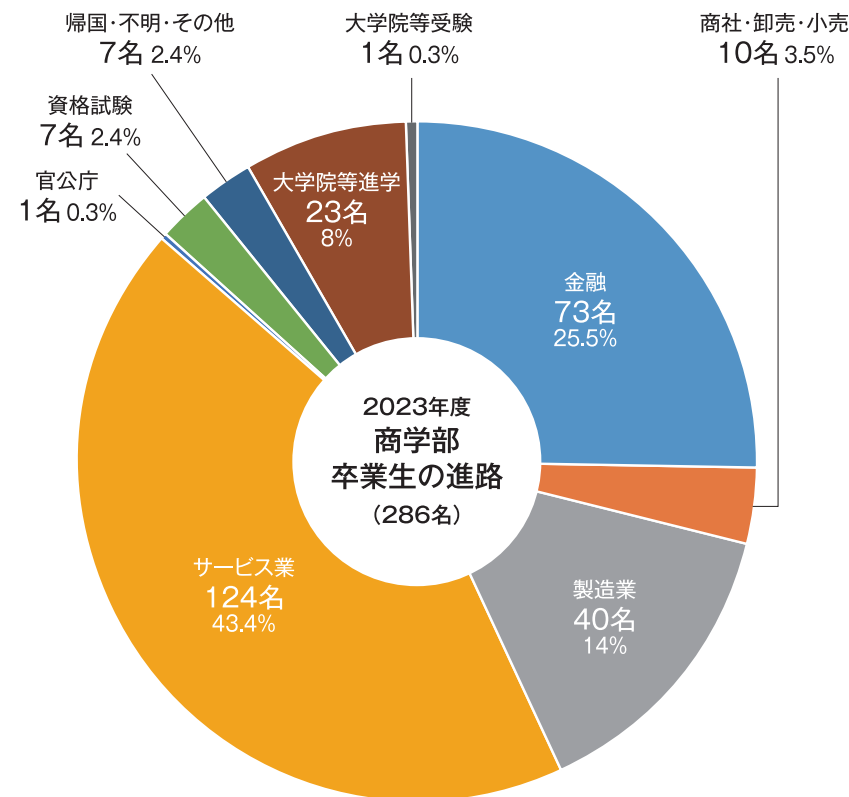
民間企業等への就職状況

一橋大学商学部の卒業生の9割以上は、卒業後に民間企業や官公庁などに就職します。

商学部卒業生の就職先の特色の一つは、情報・通信、経営コンサルティングといったサービス業が高い比率を占めている点です。金融機関や商社も伝統的に高い比率を占めてきました。自動車などの機械や電機、化学などの製造業も人気があり、幅広い分野に就職しているといえます。

また、商学部では、会計分野での高度専門職である公認会計士を数多く輩出してきました。公認会計士は、監査・会計・コンサルティング・税務を中心とする業務を通じて、健全な企業社会の発展を支える社会的インフラとして、重要な役割を果たしています。

直近の2023年度(2024年3月卒業)をみると、コンサルティングや監査法人などの一般サービス業(79名)、情報通信(18名)やマスコミ(7名)などのサービス業、銀行(41名)・証券(24名)・保険(8名)などの金融機関、商社(10名)に、卒業生の多くが就職しています。また、電機・機械・その他製造(12名)をはじめとする製造業(40名)などさまざまな分野に就職しています。



大学院への進学

学部卒業後、さらに高度な能力を身につけるために、大学院に進学する学生もいます。そうした学生に対して一橋ビジネススクールでは、経営学修士コース(経営分析プログラム)と研究者養成コースを用意しています。

「経営学修士コース」では企業経営に関わる高度な専門知識と分析能力を備え、企業社会の中核として指導的な役割を果たす経営人材を育成します。「研究者養成コース」では、経営学、会計学、マーケティング、金融論をはじめとする次世代の研究者を育成しています。

経営学修士コース、研究者養成コースともに学部入学から修士修了までを通常より1年短い5年間で終えることができる「学部・修士5年一貫教育プログラム」を用意しています。(データには、5年一貫生を含んでいます)

進路 在学生

学部・修士5年一貫教育プログラム

山田 浩気さん

ほんの少しの積み重ねが、
自分の世界を広げていった

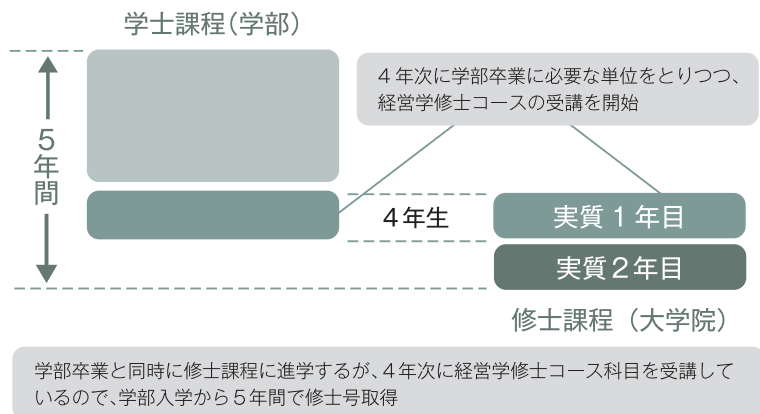
私の進路は「学部・修士5年一貫教育プログラム」を利用した、大学院経営管理研究科経営分析プログラム(MBA)への進学です。進路を決めたのは、学部2年の3月頃でした。現在は学部4年のカリキュラムに加え、MBAでは経営、会計、マーケティング、金融を中心とする領域を軸に、イノベーションやサステナビリティ経営なども学んでいます。実は、最初からこの進路に決めていたわけではなくて、一橋での学びや留学、インターンシップなどの経験を経て目標が定まりました。卒業後はコンサルティングファームでビジネスパーソンとしての素地を磨き、将来的には故郷の栃木県に還元できるような地方創生や地域活性化のビジネスをやりたいと考えています。

学部に入学した頃は、3年次に「海外派遣留学制度」を活用した留学を目標にしていた、選ばれるように好成绩で単位を取得しようとかとにかく勉強を頑張っていましたね。とはいえ、講義の予習と復習を欠かさなかったくらいですが、そのほんの少しの積み重ねが、奨学金の獲得、オーストラリアへの海外語学研修、ベルギーのゲント大学への留学、「学部・修士5年一貫教育プログラム」など、自分の世界をどんどん広げていってくれました。MBAでの社会人、新卒、留学生と多様な仲間とのディスカッションは、刺激に溢れています。新しいモノの見方や考え方に触れながら、ビジネスのさまざまな現象のメカニズムを紐解いていくプロセスは、常に驚きと発見の連続です。

一橋大学は、望んで努力をすれば
多くのチャンスを与えてくれる

一橋の奨学金制度は充実していますし、留学できる学生交流協定校も多くあります。1、2年次からの少人数ゼミは一橋大学で100年以上続いている伝統的な教育スタイルで、先生方からのきめ細かい指導を受けられます。“人との出会い”という点では、国際学生宿舍一橋寮での寮生活は国際色が豊かで、多様な価値観や文化に触れることができ、同世代の海外の友だちもつくれます。さまざまな国の学生たちと積極的に交流し、異なる価値観や文化に触れ、仲間の輪がグローバルに広がっていくのが素晴らしいと思います。これから入学される皆さんは、一橋大学にはやりたいことに集中できる仕組みや環境が整っているので、あとはそれを自分の力で手繰り寄せてください。私自身の夢の実現はまだまだ先ですが、一橋で得た気づきや学びを生かしながら一歩ずつ前進していきたいと思います。

学部・修士5年一貫教育プログラムの仕組み



進路 卒業生

株式会社GENDA 取締役CFO

渡邊 太樹さん

今でも迷った時に
商学部時代の教科書を読み返す

新卒入社で商業銀行に入行した後、投資銀行への転職を経て、現在はゲームセンター事業を主力とし、世界一のエンターテインメント企業を目指している株式会社GENDAで、取締役CFO(最高財務責任者)のポジションを任されています。ノーベル経済学賞を受賞した、資本資産評価モデルに代表されるコーポレートファイナンス理論を武器に企業活動全般を「お金」の面からマネジメントしつつ、企業の財務パフォーマンスを高めるためのかじ取りを行っています。こう聞くとかなり専門的な分野のように感じるかもしれませんが、でも実は、コーポレートファイナンス理論は、正しく理解すれば経験や年齢にかかわらず、大学生がやっても同じ答えを導き出すことができるんです。これってワクワクしませんか(笑)。私は、学部2年次の夏学期に受講した中野誠先生(経営管理研究科教授)の講義「財務管理論」で、この理論の持つ奥深さに完全にハマってしまい、暇さえあれば夜な夜な自習室でこの授業の教科書*に収録されている問題を解きまくっていました。例えば、3年後に100になる投資か、10年後に2万になる投資か、判断が難しいように見えますが、理論が答えを導いてくれます。「知っている」から「分かる」、 「分かる」から「使える」ようになる。社会人になった今も机の上に教科書を置いて、判断に迷ったときには読み返しています。褪せた背表紙は剥がれ、もうボロボロですが、私がこれまで積み上げてきた社会人としてのキャリアは中野先生の授業が出発点であり、今やこのたった“一冊の教科書”も、仕事の相棒であると言っても過言ではありません。



今、改めて大学生生活を振り返ると、授業以外にも数えきれないほどの思い出がありますが、3年次に1年間行ったカリフォルニア大学への留学はその中でも特別なものでした。一橋大学に合格し、全額奨学金での留学が認められる高成績を上げるなど、成功体験を積み重ねて多少の自信は持てるようになっていました。しかし、新天地アメリカではそんなバックグラウンドは誰も知る由もなく、「あなた、誰?」と(笑)。いい意味で、自分が思い描いていた場所から転落したような気分でした。それでも個性をアピールしながら、ゼロからのスタートで人間関係を築き上げていきました。挫折とまではいきませんが、社会人になる前に、こうした機会を持てたことは貴重な経験だと思っています。

私自身、大学に入る前から将来についてきちんと描いていたわけではなく、これからのことは大学に入ってから考えようと思っていました。やりたいことがはっきりしていないのなら、商学部はお勧めです。なぜなら、いずれ社会人として携わるビジネスの世界を知ることができるからです。また大学では、講義しかり、課外活動しかり、自身の生き方やキャリアについて、色々なアングルや示唆が得られます。卒業して社会人になれば、自分と向き合う時間を長く持てることはそうそうありません。先輩からのアドバイスとして、ぜひ商学部の4年間でいろいろチャレンジしてみて、自分の好きな道を見つけてください。その先にあなたの未来が続いているかも知れません。

*「コーポレート ファイナンス」(2007)
リチャード・A・ブリーリー/著 スチュワート・C・マイヤーズ/著 フランクリン・アレン/著 藤井眞理子/翻訳
国枝繁樹/翻訳(日経BP)

Profile

2011年3月、一橋大学商学部卒。同年4月、株式会社みずほコーポレート銀行(現・株式会社みずほ銀行)に入行。本店営業部にて、事業法人のリレーションシップ・マネージャーを担当する。2015年4月には、ゴールドマン・サックス証券株式会社に入社。投資銀行部門アドバイザリー・グループのヴァイス・プレジデントとして、主にM&Aの助言業務及び株式・債券による資金調達関連業務に従事し、エンターテインメント業界の案件を含む、20件超の案件発表を経験。

株式(IPO含む)のグローバル・オファリングやロードショーでは、エクイティ・ストーリーの策定、並びに機関投資家向けのコミュニケーション戦略の立案を担う。2021年6月に株式会社GENDAに入社、2023年4月に取締役CFOに就任。同社は、2023年7月、創業5年で東証グロース市場に上場し、半年足らずで時価総額は1,000億円を突破し「ユニコーン企業」に。今ももっとも勢いのある企業の一つ。



在学生の活躍

授業

寄附講義「観光経営論」ビジネスプラングループ発表 優勝

商学部4年 北村 理紗さん、後藤 一矢さん、谷澤 来桃さん、吉野 隆生さん

記事全文



私たちは、まず、新潟県十日町市が世田谷区との間で、再生可能エネルギー活用(地熱発電)の自治体間連携を結んでいることに着目しました。そこで、世田谷区という特定の層に絞ったターゲットとして、区内在住の中学生に対して、「サステナブル」かつ「地域密着型」の特徴を持たせる体験型学習プログラムの提供を考えました。

この松之山温泉地域は、日本三大薬湯にも数えられる良質な温泉で、地域の強みとして、サステナビリティと結びついた温泉文化があります。しかし一方で、知名度が低く、顧客も高齢化しており、今後の増加が見込めないという問題がありました。それを解決するためには何が必要かを考え、生まれたコンセプトが、「温泉留学」です。その内容は、世田谷区の中学生が松之山温泉地域を訪れて、旅館での職業体験をしたり、農業体験をしたり、観光というよりも地域の暮らしを理解するようなプログラムで、「みんながハッピーになれる」ということをベースに、それぞれのニーズに合わせた提供価値を考えたビジネスプランです。 (2024/3/11 HIT MAGAZINE掲載)

学び

国際カンファレンスに参加

商学部3年 愛川 優さん

記事全文



「FDSF Global Conference 2023 サステナブルな未来創造を目指して」という国際カンファレンスのブレイクアウト・セッション「次世代に聞く: サステナブルな社会への科学と金融の力」にパネリストとして参加しました。皆学んでいる分野も異なり、ディスカッションでは新しい発見もあって、とても刺激的でした。トピックの中で特に興味深く感じたのは、「社会のサステナビリティを促進するための学び、特にサステナブルファイナンスをもっと理解するために、どのような

教育の機会があったら多くの人が興味を持ち、人によっては専門人材になっていくと思うか」という問いでした。私自身も教育のシステムをどのように変えれば子どもたちがより楽しく、意欲的に学ぶことができるかということに興味があります。これらの課題解決のために「まずはディスカッションする機会を増やす」や「主体的に発言しやすい環境づくり」など、色々な意見が交わされ、サステナブルファイナンス以外の教育にも通じる面白い視点だなと感じました。 (2023/8/10 HIT MAGAZINE掲載)



部活

弓道部 初代女子部主将

商学部4年 廣瀬 小春さん

記事全文



弓道の技術についても、レベルは人それぞれです。私の場合は初心者で弓道を始めて、2年生で一番調子が上がったあとは伸び悩みました。そこで運営側に回ることが多かったのですが、選手になれなくても、勝利に貢献することがいっぱいあると、気づけたのが良かったと思っています。気持ちを新たにしたら、とても充実感が湧いてきたんです。試合に出ている仲間に対しての掛け声一つでも選手は安心します。また試合に出られるかどうか分からない交代選手をどれだけフォローできるかによっても、全体のモチベーションは変わってきます。以前の自分がそうであったように、控えであっても自分も選手なのだという意識を持たせるのは、最初は難しいです。今日は試合に出られないと落ち込んでいる部員の姿を見て、そういう気持ちは周りに伝わるなと感じました。ですので、主将として積極的に声をかけます。本人の気持ちがすぐに切り替えられなくても、「どんな役割でも勝利に貢献することがいっぱいある」と、いつか気づいてくれると嬉しいなと思います。 (2023/9/19 HIT MAGAZINE掲載)

一橋祭

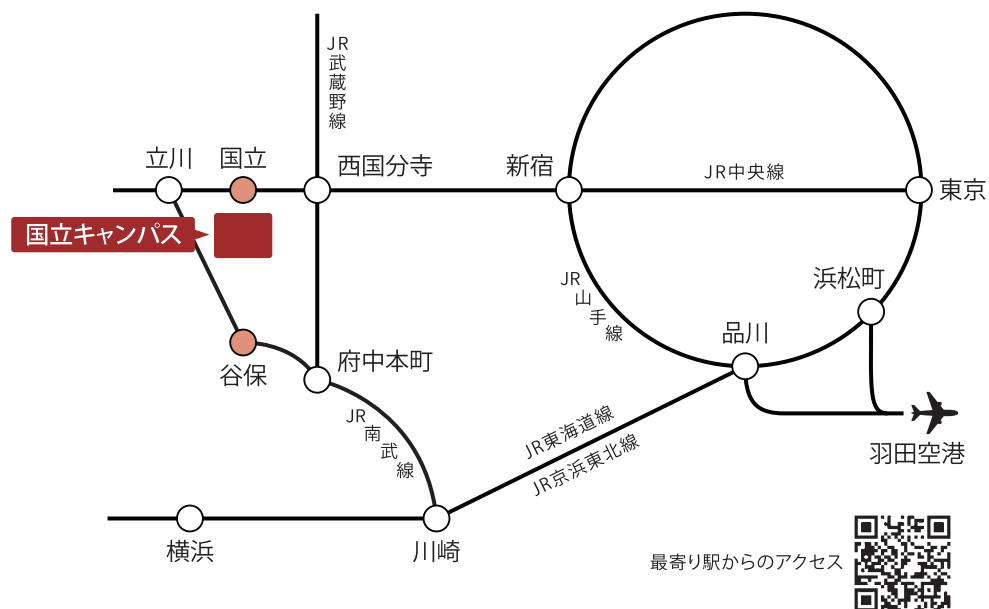
一橋祭運営委員

商学部3年 高橋 崇輔さん

記事全文



一橋祭運営委員会主催の「ゼミ対抗プレゼンコンテスト」の企画を担当しました。これは一橋生が日ごろゼミで学んだ内容を自由にプレゼンし、プレゼン力とその内容を競い合うものです。今年で6回目の開催となったゼミ対抗プレゼンコンテストは、一橋祭の伝統企画で毎年開催されています。ゼミでの研究を外部に発信できる絶好の機会ですし、先生方に審査いただくことや、優勝を目指して本気で挑むことは、ゼミでの活動において、そして大学生活において価値のある体験になるはずです。先生方からいただいたプレゼンへのご講評は鋭いものが多く、ゼミ生と審査員とのハイレベルな問答を楽しめる企画でもありました。開催までの間は、来場者の方に満足いただけるものになるか不安ではありましたが、当日の様子を見て、想像を超えるアカデミックなコンテストとなったことに、企画者として大変満足しています。後輩の皆さんには、貴重で有意義な一橋のゼミでの活動を大切にしたいと思いますし、ゼミでの研究の集大成として、本企画に奮って参加いただければと思います。 (2023/12/14 HIT MAGAZINE掲載)



商学部・大学院経営管理研究科は、
ビジネススクールの代表的な国際
認証機関であるAACSB International
から、日本の国立大学で初めて認証を
取得しました。



国立大学法人

一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

〒186-8601 東京都国立市中2-1

商学部サイト

